

人口減少を考える3

この114号は40周年記念号であり、人口減少について考える3号連続の特集の最終回でもある。

前ページの各号の頻出ワードは「IoT」「観光」「関係人口」で、人口減少と働き手不足を観光・交流と技術でカバーしようとした10年間で浮かび上がる。

今回のフォーラムは、人口減少特集の総括を目的に企画が動き出した。多忙を極める天野先生の日程が日本生命徳島支社のご尽力で大幅に繰り上がり、40周年行事として開催できた。会場一杯の聴衆にお届けできたことを、来賓・講師・パネリスト・後援関係者に改めて感謝申し上げたい。

本号巻頭に、フォーラムのほぼ全文を掲載した。来場者アンケートでは、73%に「具体的な行動や取り組みを、すぐに始めたいと思った」「具体的な行動や取り組みについて考えるきっかけとなった」とお答えいただいた。講演を機に人事制度を変更した企業も、複数お聞きしている。

最初の論文「労働人口減少時代の企業改革」は、全国的な人手不足の背景を探るとともに、改革を進める県内企業の姿や、社会減対策に取り組む自治体を取り上げた。

「変化をみせる県内企業」は、諸制度が実際の働きやすさにつながるためにどのようなアクションが必要か、事例をもとに考察した。

「地域とクリエイティビティの関係」では、「クリエイティブ産業」に関する先行研究に独自に「クリエイティブ人材」の概念を加え、地方においても自力で活躍できる人材について考えた。

「農地の未来を守るために」は、急減する農業の担い手をいかに埋めるかを取り上げ、打ち手を提示した。結果的に、観光や街づくりとも共通する「人」の要素が浮かび上がった。

5本目の「価格転嫁データの考察」は人口減少を直接取り上げたものではないが、従業員への還元の出資は価格転嫁なしには生まれず、若者流出に間接的に関わるトピックスである。

寄稿「『地域』は『地域』に」では、都市と地方の問題を哲学や経済学の切り口で語っていただいた。示唆に富んだ内容であり、私自身の人生を振り返る補助線ともなった。

東京圏への一極集中は経済面のみならず「朝の連続テレビ小説」に現れるように文化や社会システムにも深く組み込まれている。人口減少特集はこれで区切りとするが、一つですべてを解決する魔法のような策はない。フォーラムでは若者流出を主に取り上げたが、若者たちの自由は縛れないし、縛ってはならない。彼らの意思を尊重し、それでも「ここで暮らしたい」「戻ってきたい」と思ってもらえる地域を、立場を超えて考え築いていくのが我々大人世代の責務である。